西南中国トン族の「カン」組織に関する研究

―華南・東南アジアのタイ系民族の前近代、記憶と現在―

京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科
東南アジア地域研究専攻　博士課程５年（助成時）
京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科　特任研究員（現　在）

黄　潔

◆ 研究の目的

中華人民共和国成立（1949 年）以前、漢民族の居住地区と近接したトン族の居住地区では、伝統的な「長老制」とそれに適応した「款（カン）」という村落連合の盟約組織を作り上げ、維持してきた。トン族の款（カン）に関する議論は、①漢語史料に依拠し、款組織の発生・発展と消滅の経緯に関する史的研究と、②款組織の慣習法に関する研究という二つの流れがある。ただし、款はどのような構造であるのか、トン族の現住民にとって款はどうのように意味づけているのか、についての研究が十分に行われていなかった。本研究はそれらの議論を進めるためのものである。

なお、トン族やチワン族など比較的漢化したとされる、中国側のタイ語系集団までを視野に入れたものは非常に少ない。そこで、本研究は、中国側の事例を東南アジア世界において、タイ語系諸民族の政治体系や社会構造との比較の視点から研究するものである。

以上の背景から、本研究の目的は、まず、1）中華人民共和国の間接的管理の社会的な文脈を背景にした、款（カン）というトン族の伝統的な政治組織の歴史、記憶と現在の諸様相を明らかにすることである。また、2）款は地形的要因により区画された社会形態（すなわち山間盆地をもとに、複数の集落から構成される河川流域社会）であり、こうした政治形態が、盆地を基盤として成り立っていた、中国雲南省・タイ・ベトナムなど東南アジア大陸部のタイ語系集団の前近代における社会形態のなかにおいての特徴や独自性を明らかにするものである。

◆ 研究実施項目とその内容

本助成の研究期間において、研究の実施内容は次のようであった。

① 2018 年 8 月 24 日～9 月 11 日、中国広西三江県と湖南省通道県・貴州省貴陽市にて、トン族の地域社会と民間信仰をめぐる現地調査、華南少数民族の歴史と社会に関する文献調査。
② これまでの調査データを整理し、トン族の伝統的な社会組織と権力構造に関する研究の公表。
③ 2018 年 12 月 8 日～12 月 28 日、中国南部とタイにおけるタイ系諸民族の歴史に関するタイ地方文献資料の収集、タイ北部タイ・ルー族、タイ・ユアン族集落にて短期調査。

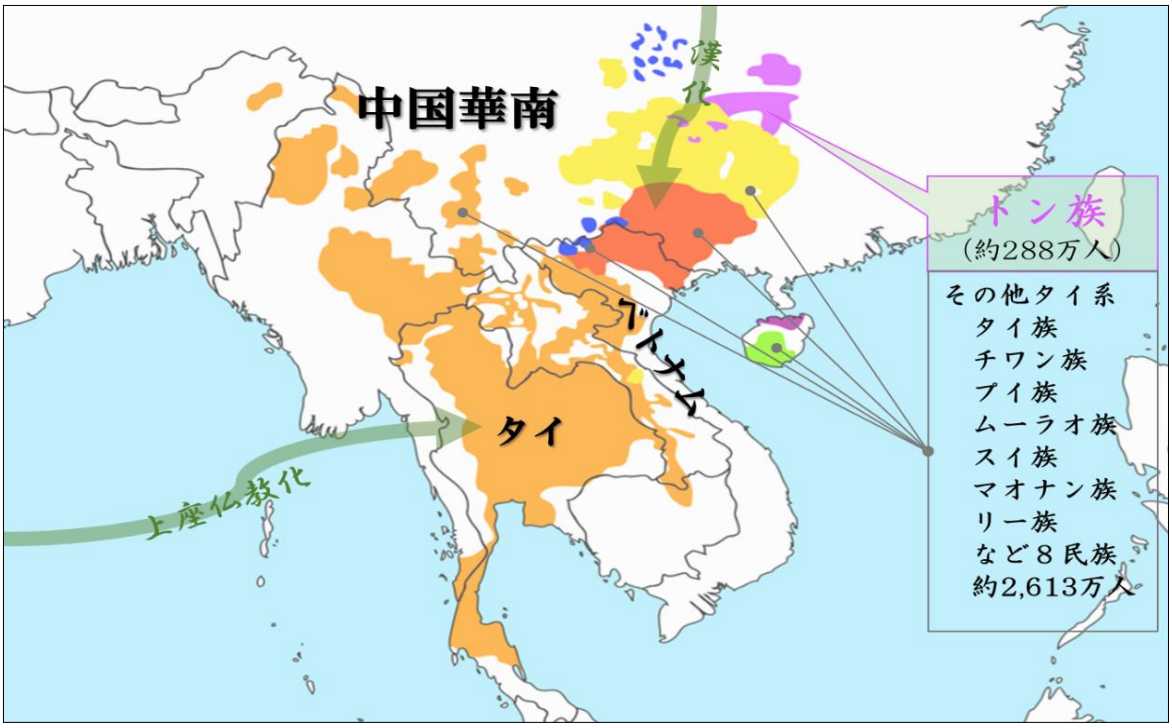
◆ 研究の成果（結果）

上記の目的に基づく、これまでの文献調査とフィールドワークでは以下のような結果が得られた。

1）歴史書・地方文書によると、款（カン）とは非漢少数民族社会の盟約習俗であるが、トン族の知識人たちは、単一民族としての自民族社会の歴史と文化を構築するため、款をトン民族固有の社会制

度とみなされてきた。ただし現地調査によると、従来の「トン族＝款社会」論には漢語文献に依存することや、史実に不明な点が多いなどに問題があるため、地元の住民が重視されるトン語の民俗概念によりトン族社会論をとらえなおす必要があること。

2）中国の華南地方に居住するトン族は、他のタイ系民族に比べれば、漢民族の文化に強い影響を受けていたことに特徴があることが従来の研究に重視されてきた。しかし、トン族は山間盆地を基盤として河川流域社会を形成してきたことや、地域社会の政治構造と関連する祭祀文化を持っていることに特徴があることは、他のタイ系民族と類似することである。



東南アジア大陸部・中国の華南地方におけるタイ語系民族の分布図

トン族の居住地（中国貴州・広西・湖南の境界地帯）

調査地の概況（川沿いの村落連合）